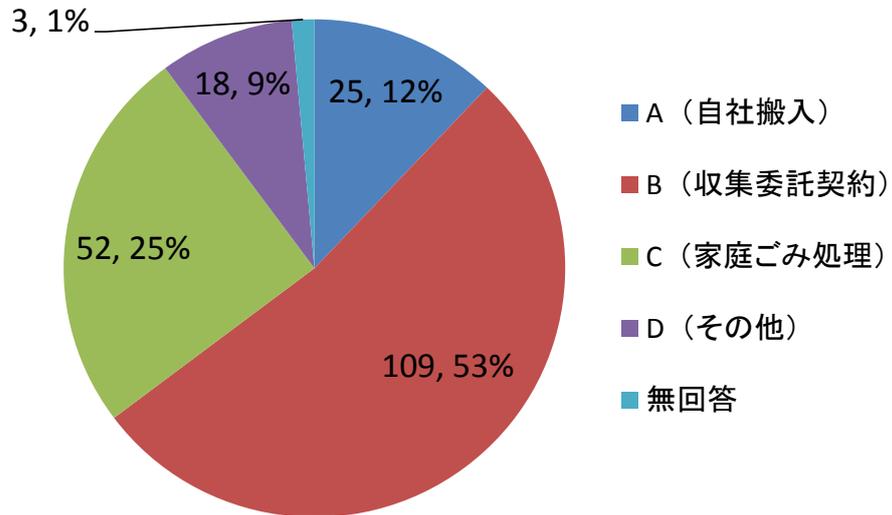


問1. ごみの  
排出方法

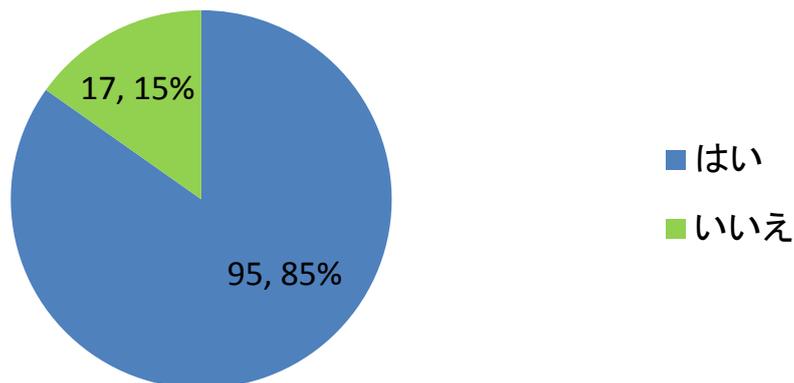


回答があった事業者のうち、約53%の事業者が一般廃棄物収集業者と委託契約を結んでいた。しかし、平成28年度末時点で収集業者から報告があっている件数は101社であり、委託契約を勘違いをしているか、又は許可外業者と契約をしている可能性がある。

また、約23%の事業者が家庭ごみと一緒に事業系ごみを排出していた。

その他の回答としては、リサイクル業者にお願いしていたり、医療系廃棄物と一緒に処理していたり、別の事業所に集約後処理されていたりした。

問2. 指定袋  
使用の有無

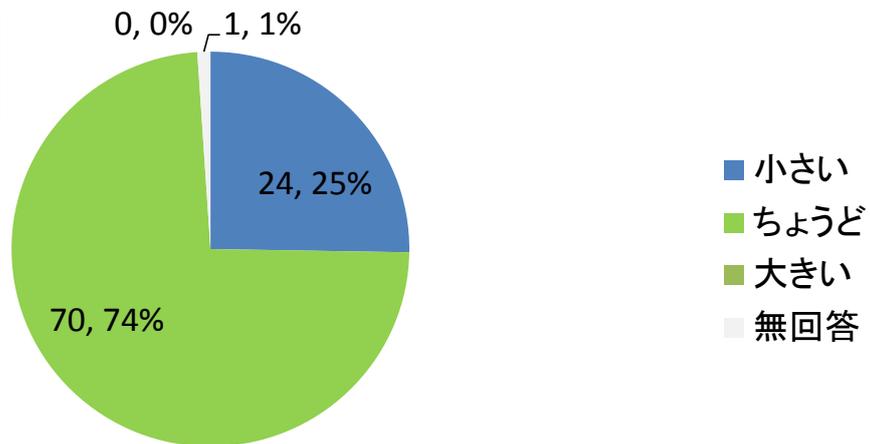


問1で収集を委託していると回答した事業者のうち、約85%の事業者は指定袋を使用していたが、約15%の事業者が指定袋を使わずに排出していた。

基山町内事業者への廃棄物処理方法の周知はもちろんのこと、

- ・一般廃棄物収集許可業者へ、指定袋に入っていないごみは回収しないように徹底すること
  - ・クリーンヒル宝満での事業系廃棄物の抜き打ち検査を実施すること
- などの検討が必要。

### 問3. ごみ袋の 大きさ

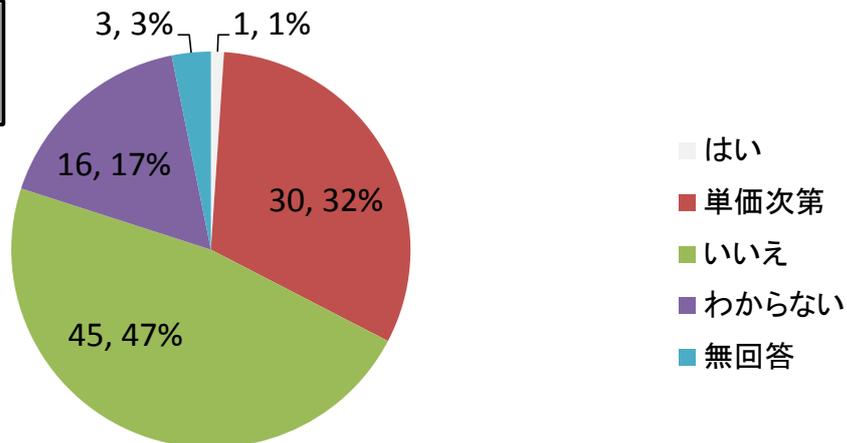


問2で指定の袋を使用していると回答した事業者のうち、現在の袋でちょうどいいと回答した事業者は約74%に上った一方、小さいと回答した事業者も約25%存在した。また、大きいと回答した事業者はいなかった。

問6-①での意見も踏まえると、現在作成している2種類にもう1種類大きいサイズ(100L程度)を加えた3種類か、事業系可燃中(54L)、大(100L程度)の2種類と思われる。

また、厚さについて破れやすいという要望が上がっており、厚さや素材の見直しについても検討が必要。

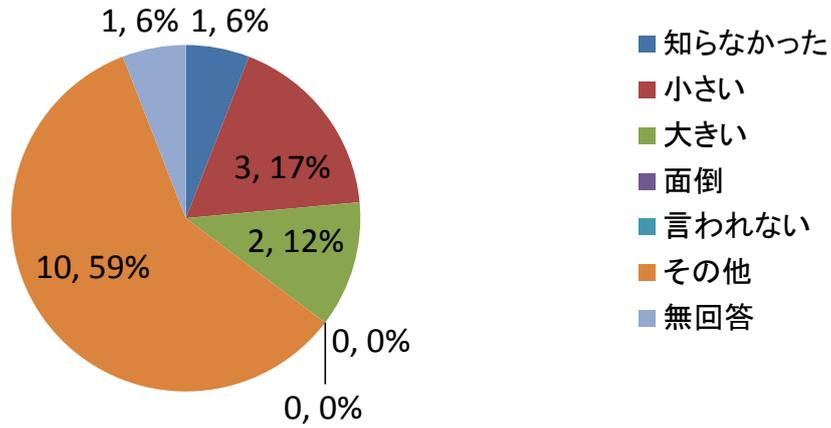
### 問3-1. 直搬 切替について



問2で委託契約をしていると回答した事業者のうち、袋単価が上がった場合に直接搬入に切り替えるかどうか尋ねたところ、切り替えると回答した事業者は1件だけだった。

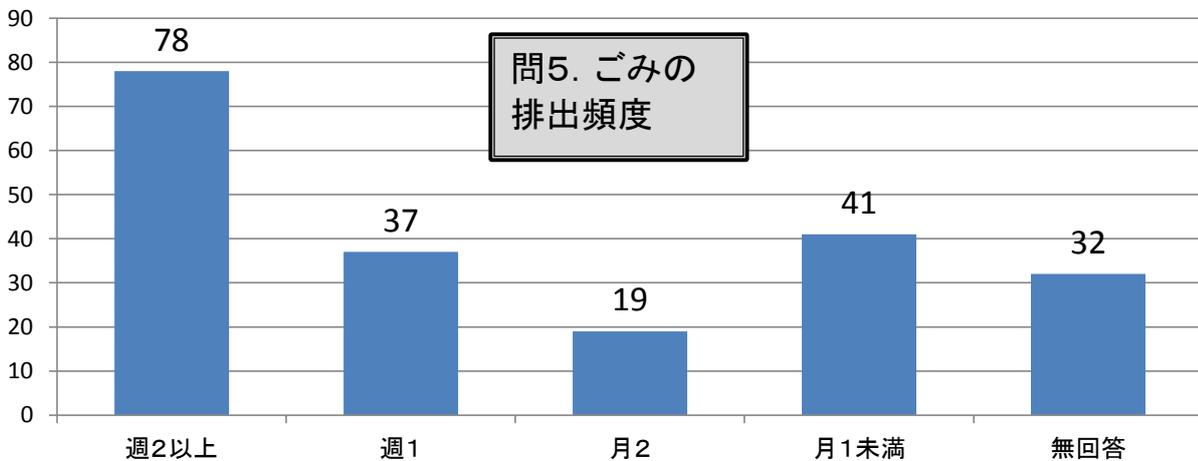
単価に関係なく委託を続けると回答した事業者は約47%、単価次第とわからないを合計した割合は約49%で、委託を続けると回答した事業者数とほぼ同数となった。

問4. 指定ごみ袋を使わない理由について



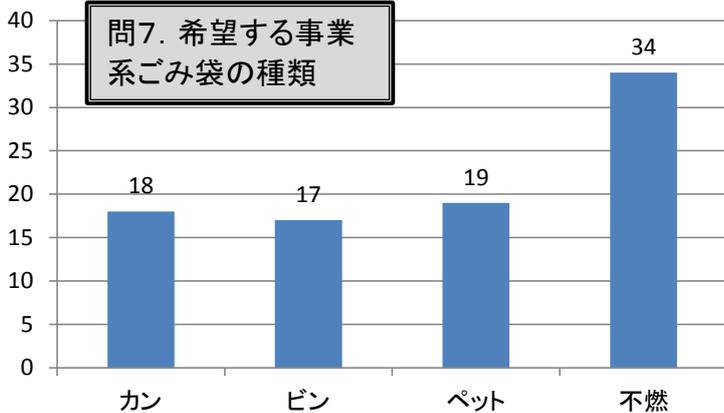
指定袋を使わない理由のうち、知らなかったため使わなかった事業者は1件である一方、小さすぎるためが3件あった。その他については、『自社にある袋を使用しているため』、『市販の袋を使用』、『一般廃棄物収集業者へ委託しているから』、『バケット車で回収してもらっているため』といったものがみられた。

問5. ごみの排出頻度



ごみの排出頻度については、週に2回以上出しているところが約38%でもっとも多かった。この中には、家庭ごみの定期収集日(週2回)と勘違いしている業者が含まれていると思われる。また、通常は家庭ごみで出し、多い時は直接搬入している事業者も見受けられた。

問7. 希望する事業系ごみ袋の種類



可燃袋の他に希望するごみ袋の種類については、不燃物が34件でもっとも多かった。

不燃物については、産業廃棄物との区別が難しいため線引きについて検討が必要。

※有効アンケート数=207件  
 不燃希望率≒16%  
 カン希望率≒9%